

もも・ネクタリン特報

◇せん孔細菌病多発地域を中心に、春型枝病斑が多数確認されています。すでに、葉への感染が確認されておりますので、摘果・袋掛け等の管理作業と併せて枝病斑の切除を実施してください。（詳細は裏面をご覧ください）

*隣接する園地や収穫中の作物への飛散に十分注意してください。

*ももとネクタリンの混植園は、ネクタリンの防除を実施してください。

もも

第7回 定期防除

散布時期：6月17日～24日（前回散布から14日以内）

◇せん孔細菌病の多発園は、散布間隔10日以内を厳守してください！



散布薬剤： 水 100ℓ
 展着剤 20ml
 デランフロアブル 166ml（7日前、4回）
 劇ダズバンDF 33g（14日前、5回）
 （劇・・・劇物のため、ご購入の際は印鑑をご持参ください）

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病虫害：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、ウメシロカイガラムシ
 10a 当り散布量：600ℓ

【注意事項】

- ①せん孔細菌病の発生園は、マイコシールドの1,500倍(21日前、5回)を加用する。
- ②カメムシ類の発生園は、アルバリン顆粒水溶剤の2,000倍(前日、3回)を特別散布する。
- ③ハダニ類の発生園は、カネマイトフロアブルの1,000倍(7日前、1回)を加用する。

ネクタリン

第7回 定期防除

散布時期：6月16日～23日（前回散布から14日以内）

◇せん孔細菌病の多発園は、散布間隔10日以内を厳守してください！

散布薬剤： 水 100ℓ
 展着剤 20ml
 デランフロアブル 166ml（14日前、2回）
 劇ダズバンDF 33g（14日前、2回）

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病虫害：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、ハマキムシ類
 10a 当り散布量：600ℓ

【注意事項】

- ①せん孔細菌病の発生園は、スターナ水和剤の1,000倍(7日前、3回)を加用する。
- ②カメムシ類の発生園は、アルバリン顆粒水溶剤の2,000倍(前日、3回)を特別散布する。
- ③ハダニ類の発生園は、カネマイトフロアブルの1,000倍(3日前、1回)を加用する。

裏面は、せん孔細菌病対策、摘果について掲載しています

今後のせん孔細菌病対策について

☆6月5日に梅雨入りとなり、今後は降雨による果実感染が心配されます。
多発園では特に下記の内容に注意し、被害を最小限に抑えましょう！！

① 春型枝病斑を除去する（伝染源を少しでも減らす）

* 枝病斑を全て除去すると結果枝が不足してしまう場合は、先枯れ症状を中心に切除して、結果枝を確保する。



先端部の枯れ込み



枝病斑には亀裂が見られる

② 薬剤の散布間隔は10日以内とする（予防散布を継続する）

* 薬剤散布による防除（殺菌剤）は、あくまでも予防です。感染した後の治療効果は期待できません。降雨前の散布を徹底してください。

③ 早期に袋掛けを実施する（降雨による果実感染を防止する）

* 白根白桃・黄金桃・ネクタリン等、せん孔細菌病の多発が心配される品種や、せん孔細菌病多発園地では果実感染防止のため、薬剤散布実施後なるべく早く袋掛けを実施してください。

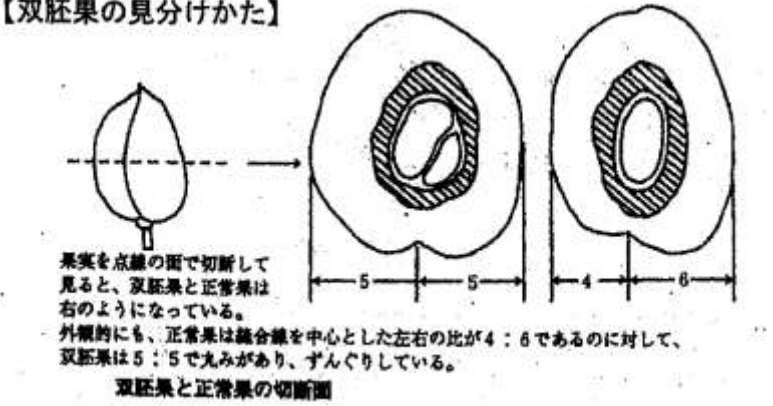
ただし、黄金桃・ネクタリン等で7月に生理落果が発生する品種は、着果量をやや多めに残して袋掛けを実施してください。

【摘果について】

- ◆落果期以降の樹勢衰弱が改善されない場合は、着果量を減らし樹勢の回復を図ってください。
- ◆急に強い摘果を行うと生理落果や核割れ発生の要因となります。予備摘果・本摘果に分けて実施ください。
- ◆結実量が不足する場合は、品質・着果位置が悪くても基準量を確保しましょう。

	実 施 時 期	程 度
本摘果	満開後 50 日まで (6 月 20 日頃までに)	品種や樹の大きさ・樹齢・土壌の肥沃度を考慮して実施する。 果実の選択：大きくて偏平なもので肌に光沢があるものが良い。つやがなくなった果実は生理落果する。大きくても丸い果実は双胚果である。 (双胚果は核割れや落果の一因となる)

【双胚果の見分けかた】



【結果枝別の着果基準】 適樹勢の場合

結 果 枝	予備摘果	本摘果
長 果 枝	2 ～ 3 個	1 ～ 2 個
中 果 枝	1 ～ 2 個	0 ～ 1 個
短 果 枝	0 ～ 1 個	0 ～ 1 個 (5 ～ 6 本に 1 個)